

木之本桜ちゃん、10歳、友枝小学校5年生、毎日ローラーブレードで下校している女の子
元気な笑顔、華奢で未発育な体、制服の裾からチラチラ見える脇腹、太腿、お尻……
自宅の窓から毎日眺めていたその愛らしく眩しい姿は、俺の理性を奪い取るのに十分だった
彼女は毎日同じ頃に通り過ぎる、今日は曲がり角で待ち構え、死角から彼女にぶつかる
わざと転び、大げさに痛がって見せる、自宅まで支えてもらいそのまま自室へと誘い込む……

ね、ねえ……おじさん
えっちな事しよう……してる？
こ、こんな事、私ダメだよ

もう離して、服着て帰るから
誰にも言わないから……
おうち……帰してください……

ドキッ……

ドッ……

ん……

我ながら杜撰な計画だったが、優しい彼女はあまりにも簡単に、無防備に、獣の巣に足を踏み入れてしまった
密着したまま二人きり、さくらちゃんの香しい女兒の体臭に、かすかに残った理性が黒く塗り潰されていく
淀んだ欲望が膨れ上がり、小さな彼女を力で押し倒し、服を剥ぎ取り、香りを吸い込み、舐め回し味わう
もう、手遅れだ——さくらちゃんが、悪いんだからね……

育ち切っていない非力な身体で必死に抵抗するさくら、表情にはまだ反抗の意志が見える
やむをえず、拳で数発殴りつけて二人の力関係を理解させる
女兒を暴力で従わせるといふ、社会道徳として許されない最低な行為
しかしなぜだろうか、たやすく支配欲と嗜虐心が満たされていく…
腕づくで服従させ、大人しくなったさくらをベッドに組み敷き、抑えつける
鉄で邪魔な服を切り裂くと…夢で見た、白く柔らかな肌が露わになった

やだ…やめて…
痛いのだ…
もう逆らわないから…
恥ずかしい…気持ち悪い…
やだ…無理だよお…

え…なに…ソレ…
…それ…おちんち…?
大きいの…どう…して…
…嘘…だよ…?

異常な興奮に息を荒げ、小さな体に夢中でむしゃぶりつく
自分の体臭が染みついたベッドの上でさくらの細い身体を撫でまわし、まさぐり、揉みしだく
柔らかな唇を、ぷっくり乳首を、すべすべの太腿を、小さな指を、つるぷにのすじまんこを…
全ての部位を舐め回し、さくらの全身を一通り唾液でマーキングし終わって
そのための準備が整ったと言わんばかりに、怒張したちんぽを押し当てる
既にさくらの表情からは抵抗の色は消え、絶望に支配された瞳がソレを見つめていた



はあ……はあ……
汚い……きもち、わるい……
なんでこんな事する、の……

…ッ!?
なん…あ…え?
おちんち…刺さっ…て…?

唾液と、防衛本能から分泌される愛液と、先走ったカウパーが混ざりあい淫靡な潤滑汁が規格違いの性器をだんだんと結び付けていく……

陰茎で入口の割れ目を擦り、すじ肉を擦り、何度も何度も滑り込ませるように挿入を試みる

穴の入口を捉え、まっすぐ腰に力を込めてゆっくりと突き上げる、そうしてやっと……

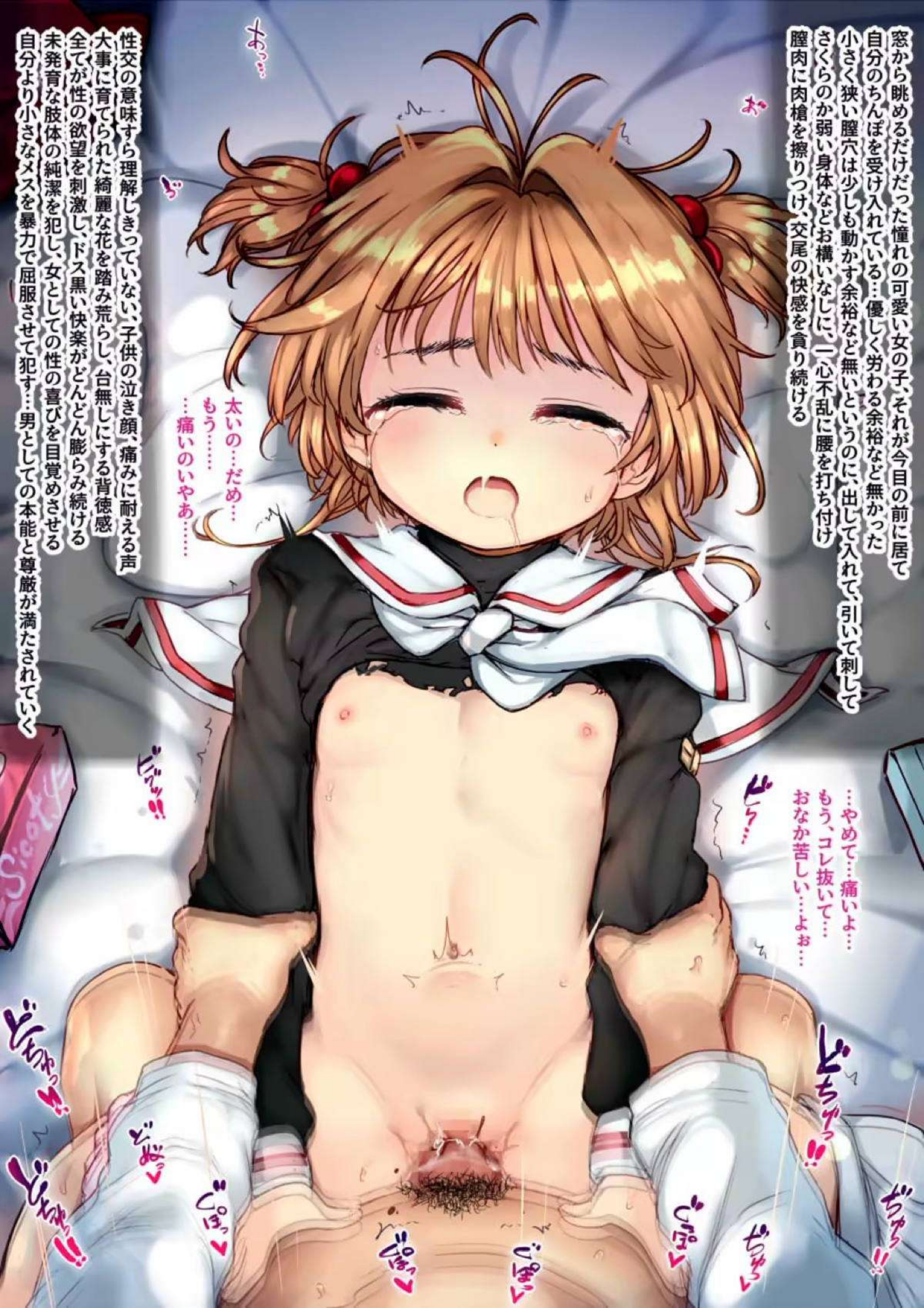
さくらの10歳陰穴を無理矢理抉じ開け、侵入し、処女膜を破って、犯して——二人の性器が結合した

窓から眺めるだけだった憧れの可愛い女の子、それが今目の前に居て
自分のちんぽを受け入れている…優しく労わる余裕など無かった
小さく狭い膣穴は少しも動かす余裕など無いというのに、出して入れて、引いて刺して
さくらのか弱い身体などお構いなしに、一心不乱に腰を打ち付け
膣肉に肉槍を擦りつけ、交尾の快感を貪り続ける

…やめて…痛いよ…
もう、コレ抜いて…
おなか苦しい…よお…

太いの…だめ…
もう…
…痛い…いやあ…

性交の意味すら理解しきっていない、子供の泣き顔、痛みに耐える声
大事に育てられた綺麗な花を踏み荒らし、台無しにする背徳感
全てが性の欲望を刺激し、ドス黒い快楽がどんどん膨らみ続ける
未発育な肢体の純潔を犯し、女としての性の喜びを目覚めさせる
自分より小さなメスを暴力で屈服させて犯す…男としての本能と尊厳が満たされていく



おそらくまだ初潮も迎えていない、狭い小さな女児膣肉が
初めて受け入れる異物を必死で押し返そうと抵抗している
拒絶されればされるほどに、黒く歪んだ征服欲がそそれ昂る
本能のままにこのメスを孕ませたい…排卵させて、妊娠させたい…
無垢な胎の中に滾った精液をぶちまけ、全てを穢し尽くす…

…痛いよ…やだ…怖い…
助けて…お父さん…
お兄…ちや…知世ちや…

さくらの全てが雄の欲望を刺激し、射精へと導いてくれる
絶頂——血液を下腹部に集め、勢い良く精液を流し込む

膣内射精

…ツ!!!

びゅるる…!!!

どびゅる

小学生の未発育おまんここと、本気勃起した大人ちんぽ
決して交わってはいけけない、禁断の出会い
強引に結合し傷つけられ、血の滲んだ子供穴に
異常性愛者の汚濁精液が注ぎこまれていく……

あ……ああ……
やだ……あ……汚いよお……
熱いの……出さないで……

ぬ……ぬ……♡

いっ お……♡

破滅的な、獣欲に任せた、一方的な交尾
子宮内に全てを出し切るような勢いのまま射精は続き
綺麗な肌も、制服すらも子種でマーキングし穢していく
さくらの純潔を全て踏み躪り、奪い尽くして、初めての性交が終わった

これいじよ……お……
痛いのも……
苦しいのも……いやあ……

ガッガッ

さくらが漏らしたメスの香りと、自分の吐き出した精液とが混ざり合い
むせかえるほどの淫臭が部屋に充滿して、息をするたびに脳髓を刺激する
さっきまでの自分が、心にも身体にも深い傷を付けて犯し尽くした
種付け交尾済みの幼いメスの姿…非日常的な光景
否応なしに、再び黒く淫らな欲望がたかぶってくる

全ての精液を出し尽くして、もう射精などできないはずなのに
遺伝子を植え付けるために精子がドクドクと製造される
根源的な本能が、目の前の子供を自分だけのメスにしろと囁き
無理矢理でも排卵させて繁殖しろと、陰茎を更に熱く、硬く勃起させる
膣内射精…膣内射精…膣内射精…何度も、何度でも繰り返す

も…終わりじゃ…
まだ…？なの…？
やめ…て…痛いよ…
ヒューッッ

むり…わたし…
おうち…返して…
うああ…

びゅっ♡

びゅっ♡♡

びゅっ♡♡♡

びゅっ♡♡

びゅっ♡♡♡

びゅっ♡♡

あれから何日経っただろうか…起きてすぐにセックス、セックス
リビングで、台所で、風呂場で、時も場所も選ばずにセックス
二人とも力尽きて、寝て起きて、身体に食物を入れ、またセックス…
さくらとの二人だけの時間、繁殖種付け中出し交尾—
虚ろな目のさくらは、もうすべて観念したのか
俺のちんぽを受け入れて小さいながら反応を返してくれる

まだ幼い体でも絶対に妊娠させる…
ちんぽの味を身体に覚え込ませ、メスの本能を目覚めさせ
強制的に初潮を迎えさせ、その瞬間に受精させてやる
こんな生活はそう長く続くはずがない、だからせめて、終わる前に
さくらの身体に俺を刻み付けて、二人の愛の証を作るのだ…



はえ…あ…♡
あ…♡ あっ♡
おちんぽ…だめ…♡

とびゅふゅ♡

はっ♡はっ♡
はにゃ…あ…♡

どわっ♡

とびゅふゅ♡

ちんぽ…♡

ふゅ♡







あー

あー

あー

あー

あー

あー

あー

あー

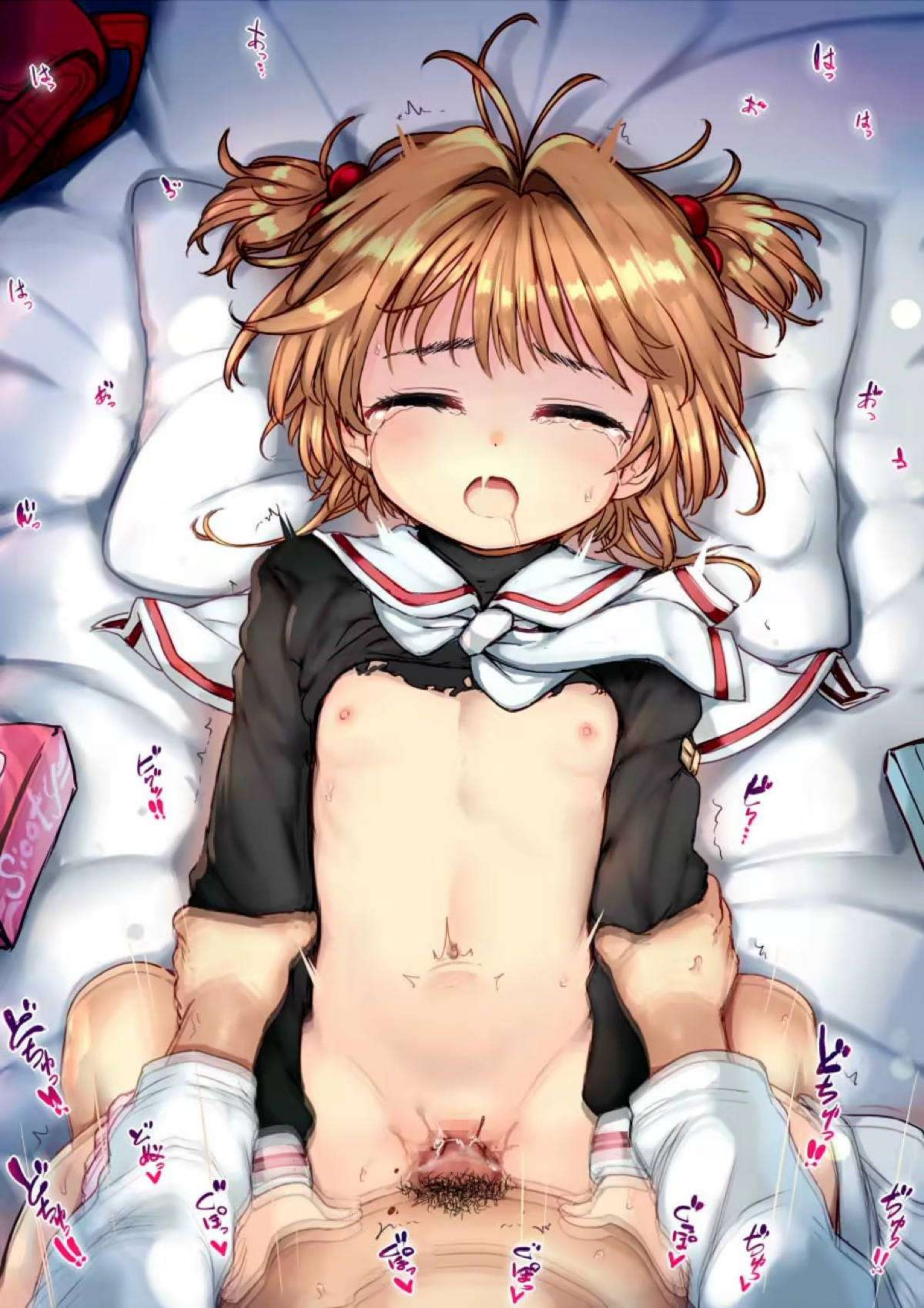
あー

あー

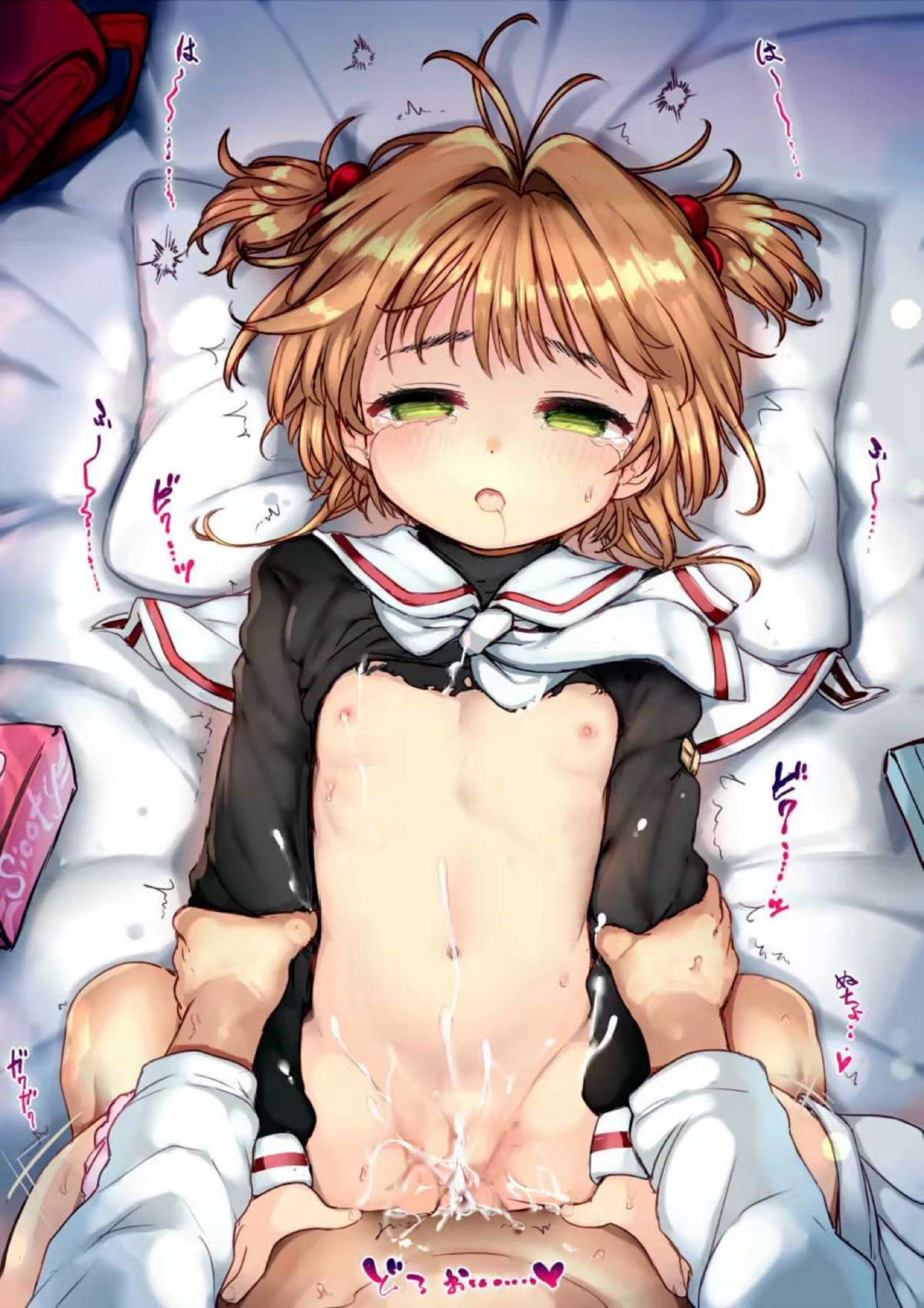
あー

あー

あー









あーあーあー

は

は

あ

ん

ん

あ

ん

は

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん



